

たまっけ

たまっけとは1960年頃まで手賀沼でもたくさん棲んでいたカラスガイのことで、今はほとんど見られません。環境レンジャーは我孫子の自然環境を市民に伝え、市民といっしょに考え、守り育ててゆくために結成されました。みなさん、いっしょに美しい我孫子を守り育てましょう。

<季節の話題> 昆虫たちの冬越し

冬の間昆虫たちは、種類により卵・幼虫・^{さなぎ}蛹・成虫のさまざまな姿で^{きび}厳しい寒さに^た耐えています。ここでは観察した越冬中の個体の状態を数例紹介します。

- (1) ゴマダラチョウ。エノキの木の根元には、落葉したエノキの葉が枯れ葉となって溜まっている所があります。その枯れ葉を裏返してみると幼虫の越冬状態が見つかります。
- (2) ヒメマイマイカブリ。千葉県要保護種です。長い年月自然のままに置かれた倒木は、木の内部が^{やわ}柔らかくなっており、適度な湿り気が保たれています。このような倒木は絶好の越冬場所です。

見渡す限り草原が続く利根川河川敷^{かせんしき}のなかに、直径40cm、長さ40cmの古い切り株が横たわっていました。念のためにこの切り株を裏返してみると、7頭のヒメマイマイカブリがひしめいていました。わずかなスペースの切り株に、なぜこのように多数の虫がみられるのでしょうか。



ゴマダラチョウの越冬幼虫2頭

広い草原には越冬に適した場所が探せなかったためにここにたどり着いたと思います。他の場所では高さ1mの折れた古木のなかの柔らかくなったところに2頭が越冬中でした。普段は林床の下草上を歩き、カタツムリを餌としていますが、まさか高い所までよじ登り越冬場所にするとは予想もしませんでした。越冬に適した場所探しの必死のおもいが感じられます。

- (3) ヒメズメバチ。林中で長年放置されて朽ちた倒木は内部が柔らかく、越冬に適した場所です。朽ち木内部を自分の体よりやや大きめの空所をつくりここで越冬します。松の木の樹皮の下で^{くうどうぶ}空洞部をつくる個体もありますが、ふつうは単独越冬しています。クロスズメバチも同じような場所で見つかります。



成虫で冬越しするヒメマイマイカブリ

- (4) テントウムシ。日のよく当たる松の樹皮下に集団で越冬する姿が見られます。観察例では約40頭はいました。ナミテントウムシでした。
- (5) クチキムシ・オオクチキムシ。林の中の松の木の倒木の樹皮をはがしてみると、クチキムシとオオクチキムシが数頭ずつ集まって越冬しているのが見られます。スギの樹皮下でもいろいろな種類が見られます。
- (6) ウバタマコメツキムシ。松の木の朽ちた倒木の樹皮下で、自分の体が入る空間をつくり越冬します。翅の表面は白く凍りつき越冬中の厳しさが感じられます。
- (7) ゴミムシのなかま。倒れて朽ちた木の中や木の下には、さまざまな種類のゴミムシが見られます。なかでも青緑色をした美しいアオゴミムシは集団で見られます。オオホソクビムシも見られます。この虫はミイデラゴミムシと同じ仲間、冬でも危険を感じると肛門からガスを噴射し逃げるのが観察されます。
- (8) カメムシのなかま。松や杉の樹皮下にはさまざまな種類が越冬していますが、多くは単独で見られます。オオホシカメムシやヒメホシカメムシは朽ちた倒木のなかで数個体の状態で見られます。

手がかじかむつらさを我慢すれば、一冬で数十種類は見つかります。虫たちの冬越しの厳しさを実体験するのも、虫を愛する者にとっては重要なことと思います。

(寄稿：岡発戸・都部の谷津を愛する会 専門委員 青木直芳さん)

<地域と暮らしの話題>

ぶらり第11回ジャパン・バード・フェスティバル (JBF) 2011

このフェスティバルは、第1回目を2001年11月に開催し、毎年規模を拡大しながら開催されている、子供から年配者までの年代を対象に、「観る・知る・触れる・鳥を楽しむ」を合言葉に手賀沼周辺で行われる、鳥をテーマにした楽しいイベントです。

今回は10月22日・23日、6会場にて開催され、主催者発表によると139の団体が参加をし、28,000人の方々が二日間を楽しみました。

22日(土)朝方の豪雨から、小雨になり会場では準備が始まって、開催の頃には雨があがりました。野外イベントも予定通り行いました。

水の館会場では、バードカービング・コンクール2011の作品が初級・中級・上級と分けて展示されており、一つの木片から鳥を掘り出して時間と根気のいる作業を行い、初級でも鳥の表情がうまく表されていました。

手賀沼親水広場では、光学機器メーカーの出展・展示があり、双眼鏡・フィールドスコープに触れて品質・性能体験ができました。あいにく鳥は見え、木の枝や葉っぱだけでしたがきれいに



♪鳥くんのトークと内山さんのバードカービングのコラボ

見ることができました。あびこ谷津校友の会ブースでは竹で鳥笛を作りましたが、接着がう

まく出来ず、手で押さえながら吹いて楽しんでおりました。結局のところ帰宅した時には接着位置がずれて、鳥の鳴き声には程遠い音になっていました。

鳥博広場会場では我孫子野鳥を守る会ブースにて鳥のぬり絵を体験、うまく羽の色が表現できず、作品には、6才と表示して掲示依頼しました。ぬり絵は評判が良く次々と参加者が訪れ、大人も子供も真剣に描いておりました。当ブースは、手賀沼周辺の環境と野鳥の紹介および参加者が野鳥と親しく付き合い、野鳥の素晴らしさを認識してもらい、そのことが自然保護につながるきっかけになればとの思いから企画されたとのこと。自然を大切にすることを心気が伝わってきました。

アビスタ手賀沼公園会場での鳥の博物館友の会ブースは、鳥^{とりだこ}凧をあげてみよう！で コウノトリやタンチョウの貸し出し用鳥凧は、強風でよくあがっていました。

ブース前にフィールドスコープを設置して手賀沼の鳥を観察していました。

訪れた時は「ミサゴ」が杭^{くい}に止まっているのがよく見えましたが、強風でフィールドスコープが揺れるので、見ている鳥が揺れ、じっと見ていると目まいを感じ、観察を止めました。

アビスタ正面玄関前では子供たちによるフラダンスを行っており、一生懸命練習した^{かい}甲斐があつて、とても上手に音楽と合っていてハワイの波を思い浮かべました。

スタンプラリー6箇所^{めぐ}を巡ったことで、JBFピンバッジをいただきました。

オオバン賞・バン賞は出展参加した団体が行った展示、実施プログラムの内容をJBF実行委員会^{しんさ}が審査して決定され、今年のオオバン賞は釧路観光連盟・根室観光連盟・釧路市・根室市、バン賞は神奈川野生動物救護連絡会+神奈川ウォーターネットワークが受賞されました。

今年2012年は11月3日・4日の開催が予定されています。

豊富な自然環境に恵まれ、生態系がうまく作用できている地域であっても、生態系維持の^{そくしん}促進を望み、来場された多くの方々が「人と鳥の共存」を感じ、自然保護に対する意識の向上や自然を大切にすることを願っての2日間でした。

(環境レンジャー 吉田知之・染谷迪夫)

特集 エコ・こども教室

10月16日は、朝に雨が上がり、この季節には珍しく夏日となりました。

この日は、アビスタで子どもまつりが開催され建物の中も外も子供たちで賑わっていました。そんな中で手賀沼賞（我孫子市科学作品展の中から選出された14作品）から環境レンジャーが独自に選んだ子供たち（小学2年生～中学2年生の生徒さん）の研究発表会が行われました。



ちょっぴり緊張しながらも堂々とした発表の様子

会場はアビスタの2階学習室です。ご本人はもちろんですがご両親や、担任の先生、理科の先生、教頭先生、校長先生方も来られて始まりました。それぞれに自分たちのまとめ上げた内容に目を輝かせて発表していました。個々の発表ごとにレンジャーからアドバイスを受けながら進んでいきました。

都合でご本人が発表できなかったお二人の作品は推薦^{すいせん}したレンジャーが代行し、6作品が発表され盛んな拍手を受けていました。発表者ご本人は慣れたことではないと思いますが、堂々と大きな声で自信に満ちた発表で、その内容も皆さんの関心を盛り上げていました。

会場は立ち見が出て入り口付近の方で背伸びするほどに込み合っていました。

終了後、表彰状とミニプレゼントを受け取り大切そうに作品を抱^{かか}えていました。



表彰状を手にした発表者の皆さん

(環境レンジャー 矢竹晴子)

以下、その6作品の概要をご紹介します。

①「がんばれ たまっけ」(新木小：松原大成さん)

<作品のあらまし>

手賀沼水辺探検隊に参加したのをきっかけに、手賀沼の自然を船からと陸から調べています。

「たまっけ」を知っていますか？

たまっけは、以前は手賀沼にたくさんいた大ぶりのカラス貝のことで、今ではほとんど見られなくなってしまった二枚貝です。松原大成さんのこの論文のタイトル「がんばれ たまっけ」も、観察を通して手賀沼の自然環境を守っていききたいという気持ちから付けられたものと思います。

魚のエサになるプランクトンの存在を知り、顕微鏡^{けんびきょう}を使って観察し、スケッチや写真におさめました。そして、魚がたくさん獲^とれる沼になればいいと希望を持ちました。

全国汚濁^{おだく}ワーストワンの汚名を返上^{へんじょう}、トライアスロンができるまでになったことは、その希望に近づきつつあると思います。

船上からの観察には、周囲の様子にも注目して、ハスの葉の上の雨水がコロコロ、キラキラしていたこと、カイツブリ、カワウ、コアジサシなどの野鳥も見逃していません。

船中で見せてもらった「たまっけ」がきれいだったこと、絶滅してしまった貝を見られてうれしかったこと、素直な感想として「ぼくも貝をたべたい」は、子どもの願いをそのまま訴える力を感じました。小学二年生が、手賀沼^{じょうか}の浄化に関心をもって、自然を守ろうという意欲を感じさせられる観察です。環境レンジャーとしてだけでなく、ひとりの大人として感銘しました。

(環境レンジャー 須藤智子)

②ビックリする！ほどきれいな水に (湖北台西小：小野竜之介さん)

<研究のきっかけ>

研究のきっかけは、手賀沼の水が長い時間をかけてきれいになったことを家族から聞いていたとき、北千葉導水場を見学しました。そのとき手賀沼の水の汚れや臭いが、どうすれば取れるかに関心を持ち、実験してみようと思い始めました。

1. 実験方法と成果は

(1) 手賀沼の水を、紙のコーヒーフィルターでろ過してみました。

- ①1回目 ⇒ きれいになりましたが、まだ汚れはあります。フィルターには、緑色の汚れがつかまりました。
- ②2回目 ⇒ もう1回ろ過すると、だいぶきれいで臭いも少なくなりました。
- (2) もっと汚れを取るために、ミョウバンや石灰を混ぜて調べてみました。
- ①ミョウバンを入れた5分後、コップの底に緑色の汚れが沈んでいました。
- ②石灰を入れてみると、ミョウバンよりもっと汚れが取れました。
- (3) ろ過した水に青いリトマス紙をひたしてみると、赤に変色・・・この水は酸性でした。
手賀沼の水や水道水は、リトマス紙に変化はなく中性です。
- (4) ろ過しただけでは臭いはなかなか取れなかったので、活性炭を使って水の臭いがなくなるか調べてみました。
- ①石灰の臭いがする水を、1回ろ過するとだいぶ透明になり、臭いはなくなりました。
- ②何回ろ過をすると、びっくりするほど透明になり臭いはなくなりました。

2. 実験を行なった小野竜之介さんの感想は

導水場見学できれいな水になるまで、「たくさんの処理や時間」のかかることを学びました。そして実験をしてみると、少しの水でも思った以上に時間と手間がかかることがわかり、これからは水を大切にしなければという思いになりました。

3. 推薦者の感想は

コーヒーフィルター、ミョウバン、石灰、活性炭、リトマス紙などを使って、段取りよく楽しい実験を繰り返されて、一つの結論を得た技術と努力に感心させられました。

日頃は見落としがちなことに関心を持ち、突っ込んで調べる姿勢は大事なことだと思いました。

世界にはきれいな水が使えない国がたくさんあります。きれいな水が使えることに感謝して、そして今の子ども達がこのような技術で、いつか世界中の水をきれいにしてくれることを願っています。

(環境レンジャー 七尾 忠、竹達智子)

③大堀川はどこから来るの？ (並木小：高城竜之介さん)

<作品のあらまし>

かつて手賀沼に汚水を流していたと言われている大堀川に興味を持ち、この川の流域を流山付近までさかのぼり観察報告にしています。

我孫子市に隣接する松ヶ崎^{りんせつ}付近から自転車で大堀川を源流までさかのぼり、川や小さな水路^{ゆうすい}、湧水地までたくさんの地点でCOD、透視度^{とうしど}の調査記録や調査地点^{たんねん}などの環境を丹念にまとめあげました。

昨年も高城さんは多くの周辺の湧水を調査していますが、今年は更に調査対象を湧水以外にも^{ひろ}拡げています。

公設市場付近の交通に危険な場所での観察、県民プラザ付近の調整池など時に危険が伴う場所にもカメラを向けています。

この調査から柏市のこんぶくろ池、弁天池周辺にも開発の手が忍び寄っているのが良くわかります。流山市付近まで、猛暑の中を自分で自転車に乗り観察を続けた高城さんの大堀川に対する関心の深さが感じ取れます。

開発の中で失われていく自然、そして湧き水の大切さ、手賀沼へ注ぐ水が汚れていく様子を観察し続けていく探求心たんきゅうしんに頭が下がります。

手賀沼の水と周辺にずっと興味を持ち、水の大切さを1年生のころから興味を持って毎年夏休みに様々な観察を続けてきた高城さんの今年の作品は、この更なる探究心のすごさに感心しました。

今後もふしぎと思うことに興味を持ち、なぜ？どうして？と思う心を持って観察してほしいです。これからも手賀沼周辺に愛着を持って観察を続けてください。

来年の予定もすでに出来ているということなので益々期待しています。

(環境レンジャー 島藤 絢子)

④「手賀沼の微生物」(湖北中：平下里紗さん)

<作品のあらまし>

理科の授業で水中の微生物を調べたことがキッカケで、より詳しく調べてみたくなり、汚れている身近な手賀沼にはたくさんの微生物がいると確信し調査しました。採取場所として手賀沼終末処理場付近の5ヶ所を選び、採取した微生物、特にプランクトンに注目したのは授業で色々な種類のプランクトンがいることに興味を持ち、顕微鏡で観察し、写真に記録しました。

<採取したプランクトンの分類>

プランクトンは素早く動くため顕微鏡で観察し写真として記録することに大変な労力を費やしました。採取結果として34種類のプランクトンが観察記録できました。この観察から動物プランクトンとして3つの仲間14種、植物プランクトンとして4つの仲間20種に分類整理しそれぞれのプランクトンの生体特徴や生息場所などを解説しまとめています。

<推薦者の感想>

採取したプランクトンを顕微鏡で観察し、写真として記録することは大変緻密な作業です。また、その分類をしたことはそれぞれのプランクトンの特徴を観て区分し、グループ分けをした力作と言えます。

プランクトン観察を通して自然界の営み、生態の営みが環境の変化に影響されることが解ります。これからも自然環境の観察と保護・保全の推進に役立てて下さい。

(環境レンジャー 荻野 茂)

⑤川のよごれを調べてみよう(湖北台西小：古川歩さん)

<研究の動機>

「昔、よごれがワースト1だった手賀沼につながっている自宅近くの小川はどれだけよごれているのか、興味がありました」と、研究の動機を書き出しています。

夏になればその小川でホタルが見られるほどなのに・・・不思議だったのでしょう。

<作品のあらまし>

手賀沼と自宅近くの小川が繋がっているので水質がどうなのか、COD、アンモニア態ちっ

素など5項目をパックテストセットで比較測定し、同様の測定調査を旅行先でも実施して考察しています。

数値上の比較に加え、川幅・水の色・臭い・周囲の様子にも及んだ総合的な観察論文で、単なる興味の域を越えた内容です。

<測定・観察結果>

利根川の上流と中流の方では、意外にもCODが中流の方が少し良かったが、それは測定日の降雨が影響されていると思われます。その他の調査項目では、上流の方が良かった。

手賀沼と水路とでは、CODはほぼ同じ値で、その他の項目でも数値に大きな差はなかったが、どちらかといえば手賀沼側の方が良かった。（推薦者註：谷津の方が上流ではと思います。）

これも見た目と違い予想外でした。

<推薦者の感想>

せっかくの家族旅行にも、疑問をぶつける探究心と努力を惜しまない姿勢には、大変感心いたしました。

川はふつう上流の方がきれいだと先入観で決めつけるのではなく、天候や流量で変化することが分かりました。その実体験をされた古川さんは素晴らしいです。

自らの予想を、測定結果で検証している論文構成にも、工夫が感じられました。今回の研究を生かして、これからも水の大切さのメッセージを発信してください。

（環境レンジャー 松本勝英）

⑥酸性とアルカリ性は植物の成長に関係あるのだろうか（白山中：橋本雅拓さん）

<作品のあらまし>

植物の成長に必要な「土」を、酸性やアルカリ性に変えて植物の成長との関係をしらべています。

<実験内容>

8月8日～8月15日の8日間、それぞれを中型のケーキカップに植え付けました。

植物の種 「二十日大根」と「さやえんどう」の2種類

使用した土 酸性の「ピートモス」、弱酸性の「腐葉土」、アルカリ性の「石灰」およびピートモス+パーキュライトの4種類

<推薦者の感想>

農業は大変難しいものです。

発芽させるには ①温度 ②湿度（水やり） ③土の掛け具合（暗いのが適しているのと、割と明るいのに適しているもの）などあり、種は水をやるだけで発芽するが生育は弱酸性が適していることに気づいたのは実験の成果でしたね。

大変根気のいる実験でした。昔から農業で農地に石灰や焼灰をまいたりするのは、土が酸性化してくるのを防ぎ弱酸性を保つためだと思います。

植物の生育に関してはまだまだたくさんの実験があると思います。さらなる疑問点を見つけ実験を続けてください。

（環境レンジャー 石橋正康）

平成23年度 我孫子市科学作品展出品数および入場者数

学 校 名	論文	工作	標本	合計
我孫子市立我孫子第一小学校	17	15	2	34
我孫子市立我孫子第二小学校	7	5	12	24
我孫子市立我孫子第三小学校	25	22	9	56
我孫子市立我孫子第四小学校	20	17	10	47
我孫子市立湖北小学校	11	11	7	29
我孫子市立布佐小学校	9	8	0	17
我孫子市立湖北台西小学校	17	7	6	30
我孫子市立高野山小学校	24	23	10	57
我孫子市立根戸小学校	35	32	8	75
我孫子市立湖北台東小学校	12	10	7	29
我孫子市立新木小学校	13	16	5	34
我孫子市立並木小学校	12	9	3	24
我孫子市立布佐南小学校	7	5	1	13
小学校計	209	180	80	469
金賞	6	6	6	18
銀賞	12	12	10	34
銅賞	18	17	11	46
我孫子市立我孫子中学校	31	15	4	50
我孫子市立湖北中学校	12	0	4	16
我孫子市立布佐中学校	13	2	0	15
我孫子市立湖北台中学校	9	9	0	18
我孫子市立久寺家中学校	13	3	3	19
我孫子市立白山中学校	33	12	4	49
中学校計	111	41	15	167
金賞	3	3	3	9
銀賞	6	6	4	16
銅賞	9	9	6	24
全小中学校合計出品総数	320	221	95	636

入場者数		子ども	大人	合計
9月11日(土)	【人】	577	925	1502
9月12日(日)	【人】	384	529	913
合計	【人】	961	1454	2415

提供：我孫子市教育委員会 指導課

<ネイチャーイン・環境学習実施報告>

◎「谷津ミュージアム自然観察と谷津祭り」

平成23年11月5日（土）、集合地の東我孫子駅南口で環境レンジャーの挨拶とけがに注意の話を聞いてから出発。



雑木林をバックに足どり軽く

歩き始めるとすぐに汗ばむほどのこはるびよりの小春日和でした。まもなく参加の少年二人は持参の捕虫網でヤマトシジミを捕えて大喜び。大人たちの足どりも軽くなりました。

谷津ミュージアムに入ると、ノブドウ、カラスウリ、イシミカワ、マユミなど美しい色の実が目をはびます。ドングリはコナラ、マテバシイ、スタジイ、シラカシなどたくさん

落ちていて、そのかわいらしさに思わず拾ってしまいました。モズ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ホオジロ、ジョウビタキなどの野鳥を環境レンジャーがスコープで次々と観察させてくれるのも楽しみでした。

花は、ヤクシソウ、ツリガネニンジン、カントウヨメナ、ノハラアザミ、アキカラマツなどが続きイヌタデは広い群落となり、日当たりの良い斜面をピンク色に染めていました。そして今日一番の見ものはタコノアシです。湿地に生えて高さ80cmほどの茎の先に数本の花序をのばし、この季節には種となっており赤く色づいたようすが、ちょうどゆでだこの足のようでした。県内では数か所にしか見られない希少なものと聞きました。この谷津にいつまでも育ててほしいものです。

ガマとヒメガマの違い、よく似ているススキとオギの見分け方もわかりました。

ガマ：10cm～20cmの雌花穂（こげ茶の筒状の部分）の上に雄花穂（薄茶の芯状の部分）がつながって付いている。

ヒメガマ：雌花穂と雄花穂の間に花の付かないはだかの軸がある。雄花穂はガマより長い。

ススキとオギの見分け方は、ススキには実の外側の端についているかたい毛（芒）があり、オギにはこの毛がありません。それからススキは株立ちを作るがオギは1本づつ茎を立てる。

さて、少年たちの虫かごの中には、ヤマトシジミ、イナゴ、ツチイナゴ、イトトンボ、シュレーゲルカエル、バッタ、カマキリ、ツマグロヒョウモン（チョウ）などでいっぱいになっていましたが、少年のお父さんの優しい指導で谷津の自然に放してやりました。

予定通りの時間に谷津祭り（自由参加）の会場に到着し、自然観察は解散となりました。

（環境レンジャー 酒井陽子）

◎「マイ巣箱作り」

11月19日当日は昨夜からの雨がやまず、あいにくの天候でしたが気温は21℃ぐらいで室内作業には適した暖かさでした。

9名の環境レンジャーが会場設営準備をしている9時半ごろには参加者が次々と入室、急に緊張感と期待がふくらみました。定刻10時にはほぼ満席の17名の参加者がそろいました。

巣箱の取り付け方、場所などの説明から始まり、作り方ではカナヅチとキリの使い方の注意などの後、いよいよ作業を開始しました。

経験豊富なレンジャーが各作業テーブルについてアドバイスしながらの作業ですから、順調に進み、最初は子供の手伝いをしていたお父さんも、子供の手伝いをやめて今度は自分の巣箱作りに夢中になっていました。心配そうに作業を見守っていたお母さん、さっき聞いた持ち方と違うでしょ！と共同作業状態にお手伝い(?)に熱がこもりました。

あくまでも自分だけで作ると頑張っているお子さん、一生懸命にカナヅチで釘を打つが幾度も釘が曲がってうまく打てなくて、ちょっと支えてあげてみた結果は見事に完成して、嬉しそうな顔が印象的でした。ご家族の絆^{うれ}を目の当たりにした有意義な「巣箱作り」でした。

春には、巣箱にシジュウカラが入ってほしいとの願いを胸に、完成した巣箱を、各自家に持ち帰りました。



(環境レンジャー 上野啓治)

◎「ネイチャークラフト：森の工作」

この「ネイチャークラフト 森の工作」の企画は今回が初めてなので、10月から見本を作ったり、クラフトに使う材料集めなど担当レンジャーも準備から楽しませてもらいました。ただ、原発事故の影響で放射線の心配があり11月10日に採集した自然からの頂き物のマツボックリやドングリ、ツルや枝の植物などはまとめて水洗いして乾かし、14日に手賀沼課で放射線量を計ってもらい、問題のないことを確認しました。

11月19日(日)当日は雨、11月にしては激しい雨が降っていて申し込んだくれた人でも参加し



てくれるのかどうか心配でした。でも親子で参加の方、大人の方、そしてレンジャーとで計16名で約2時間、素敵なものづくりの時間を過ごしました。

なんと言っても子ども達の発想が素敵で、大人もつられてなかなかのアイデアが出ました。

参加した方からはこんな感想が出ました。

「ドングリやマツボックリを見ていると創作意欲がわき作りたくなる。」

「お正月飾りを作ろうと思っていたがクリスマス飾りも作れて嬉しい」「以前カラスウリでリースを作ったことがあり毎年取り替えて楽しんでいる」など、自然のもので何かを作りたいと思う人がかなりおられるようで、次回はもっと楽しいネーミングをつけてお子さんだけでなく、大人も創作意欲をかきたてられるクラフト教室にしたいと思っています。

(環境レンジャー 島藤紘子)

◎「マイ巣箱架けとミニ探鳥会」

12月23日(祝)、快晴でしたがちょっと風が強いにもかかわらず午前10時、アビスタ正面玄関前に防寒服や作業服を着こんだ参加者12名(内、子供さん7名)が集まりました。

今回は「五本松公園」から「手賀沼公園」に場所を変えたネイチャーインです。

深い森に囲まれた五本松公園と異なる、人通りや車の多い“街中”の公園ではシジュウカラの営巣がどのくらい期待できるかの試みです。手賀沼が隣接しており、沼からの風をまともに受ける場所も^あ取って含め、20個の巣箱で挑戦です。

来園者が興味深げに見学しているなか、3班での分業で、ひとつひとつ巣箱の向きを相談しながら^{しんちょう}慎重に取り付け作業を終えました。

寒風のため、かじかんた手で脚立の上での巣箱取り付けに一生懸命の親子にレンジャーのお手伝いも熱が入りました。先月(11月)の「巣箱作り」で作った巣箱を持参してくれた親子ペアにも勇気付けられました。



脚立の上は寒くてこわいのを我慢して作業

続いて、手賀沼公園から遊歩道を手賀大橋方向約150mほど「ミニ探鳥会」をしました。

寒さも本格的になった12月は、カモをはじめとする冬鳥で手賀沼が^{にぎ}賑やかになる時期です。



探鳥会の始まり。市の鳥オオバンもたくさんいました

野鳥カードが景品のビンゴゲームが用意されているとのことで、参加者は一気に真剣な^{まなざ}眼差しになり各自のビンゴ用紙への鳥名記入では迷ったり、訂正したりこちらも賑やかです。

沼の護岸工事が進んでおり、昨冬と見られる鳥に変化があるか^{きょうみしんしん}興味津々で、観察を始めました。

お馴染みのコブハクチョウ、オナガガモ、オオバンは公園前に相変わらずエサをねだって群れています。でも風に強いユリカモメの大群が横取りしようと^{ひしょう}飛翔してきます。それぞれが先を争ってエサに食らいついていました。それと対照的に、少し離れた沖合では、カイツブリが盛んに潜ったり水面上に姿を見せたりマイペースです。遠くの水面ではカムムリカイツブリがもっと^{ゆうぜん}悠然としていて、対岸付近にはカワウが杭の上でひなたぼっこしています。上空ではセグロカモメは風によって飛んでいます。



コガモさん、逃げないでこっち向いてよ!

私たちが歩いて行くのにびっくりしたのか、風よけしていたコガモ、カルガモが姿を見せてくれました。強風のため、ミサゴは定位置にいませんでしたが、メジロが鳴き声と一瞬の出現で慰めてくれました。寒くても子供たちから元気をもらった楽しい探鳥会でした。

(環境レンジャー 松本勝英)

<ネイチャーイン予定案内>

◎「手賀沼の冬鳥観察会」

日 時 2012年1月29日(日) 午前9時～正午ごろ (小雨実施・荒天中止)

集合場所 手賀沼親水広場 水の館玄関前

観察経路 手賀大橋漁協前→(ふれあい道路)→藤棚→滝下公園→(遊歩道)→水の館

内 容 環境レンジャーと我孫子野鳥を守る会との共催です。

野鳥カードが景品の野鳥ビンゴゲームもあります。

参加費は無料。小学生以下は保護者同伴をお願いいたします。

*その他、申込み先などは「広報あびこ」(1/16号)でご案内いたします。

<新聞報道から>

昨年10月23日(JBF開催当日)の読売新聞に“野鳥の被害防止:釣り人の意識高める策を”という投書記事がありました。「釣り糸が絡まったり、釣り針がささったりした野鳥を見かける」と野鳥の被害防止策を求める内容です。手賀沼がヘラブナ釣りの人気スポットであり、大勢の釣り人が楽しんでいます。すぐそばをコブハクチョウの親子が岸辺の草を食べているのをたびたび見かけます。

我孫子野鳥を守る会の間野吉幸会長の「この辺の鳥は人なれしているの、釣りざおに近づいて来て危険だ」との心配のコメントも載っていました。我孫子市は1997年、「釣り具をみだりに捨ててはならない」と明記した条例を設けて、罰則も定めています。日本鳥類保護連盟には、釣り具で被害を受けた鳥の情報が年間50件前後寄せられているそうです。被害は全国に広がって、絶滅危惧種の被害も目立っているそうです。

マナーを守って、鳥たちに優しい釣りを楽しんでください。(環境レンジャー 松本勝英)

【調べ学習】 ～冬眠・休眠・冬ごもり～ (広辞苑 第六版:岩波書店より)

「冬眠」:冬期に動物がもっぱら運動、摂食をやめ、物質代謝の不活発な状態に入る現象。両生類、爬虫類など変温動物がこれを行い、クマなどの冬ごもり(時々覚醒して排泄、摂食などを行う)は疑似冬眠と呼ぶ。また植物などが寒期に成長を止めることをいうことがある。

「休眠」:眠り休むこと。転じて、活動が休止すること。

生物が成長や活動を一時的に不活発または停止した状態のこと。

【編集後記】

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、震災、原発事故、台風が続き、自然との共存の難しさをあらためて感じた年でした。

本号は前号発行直後に行われた「エコ こども教室」の特集号という内容になります。したがって発表会参加の6作品概要を一挙に紹介しました。

寒さが厳しい日が続いています。昆虫たちは、この厳しい寒さをどのように耐えているのでしょうか。本号のトップ記事<季節の話題>には、昆虫専門家から寄稿いただきました。

次いで、昨秋のJBFの全体レポート、ネイチャーイン実施報告、に「ネイチャークラフト」が加わりました。クラフト(手工芸)にも新しい企画を立てています。ご期待ください。

●次号は「50号」という区切りになり、何か「らしい記念号」にしたいと思っています。

(たまつけ編集子)

我孫子市環境レンジャー通信

No. 48

たまつけ

発行：我孫子市環境レンジャー

企画広報チーム

連絡先：我孫子市役所手賀沼課

TEL. 04-7185-1484

たまつけとは1960年頃まで手賀沼でもたくさん棲んでいたカラスガイのことです。今はほとんど見られません。環境レンジャーは我孫子の自然環境を市民に伝え、市民といっしょに考え、守り育ててゆくために結成されました。みなさん、いっしょに美しい我孫子を守り育てましょう。

<季節の話題> おかぼつと いちぶ 岡発戸・都部谷津ミュージアムの秋

我孫子市の岡発戸・都部にある谷津ミュージアムは、広さが36.7ヘクタールで東京ドームの8個分くらいあり、環境に恵まれ、四季折々の自然の変化が楽しめます。

谷津ミュージアムは谷津田と斜面林の豊かな緑、そして季節の移り変わりを、私たちに見せてくれます。谷津の自然は、そこに依存して生活する生き物たち、また渡り鳥たちの渡りの途中の休息と採餌さいじなどかけがえのないものなのです。特に貴重種が多くいる訳でもない普通の場所、なにげない場所、しかしこのような普通の場所、なにげない場所は、失ってみて初めて大切な場所と気づくことが多いものです。そして、ほとんど二度と元には、戻ってはくれないのです。

岡発戸・都部谷津ミュージアムはそのような場所なのです。では秋の様子をご案内いたします。

厳しかった残暑も去り谷津の大部分の田んぼは、稲刈が終わっていることでしょう。谷津には懐かしいオダ架けの風景が出現します。(写真下：谷津ミュージアムの会 阿部さと子さん提供)



谷津はオダ架けで秋を迎えます

秋になると、空気は澄んで、空は青く高く見えて爽やかな気分になってきます。アカトンボが空に舞い（谷津には4種のアカトンボがよく見られます。アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ、マイコアカネ）、周囲からは、虫の声も聞こえてきます。コオロギ類は夕方から活発に鳴きだしますが、昼間でも鳴く虫がいます。

クサヒバリ、カネタタキ、キンヒバリ、ササキリ、クマスズムシ、シバズ、マタラスズ、薄暗いアシや藪やぶの下では、ズムシさえも鳴きだします。さながら鳴く虫の演奏会です。

モズの高鳴きを聞くと秋を実感させられます。モズの高鳴きは、これからここに住み着くぞ！と縄張宣言なわばりせんげんのようです。秋も進みますと、あちこちの高鳴きが静かになります。そうなる谷津のモズの縄張りも一段落となります。そのころには、秋、冬を谷津で過ごす、山や里の小鳥たちが帰ってきて斜面林やヨシ原がにぎやかになります。一年中いるホオジロ、メジロ、ムクドリ、ヒヨドリ、スズメ、秋に帰ってくるツグミ、アオジ、ジョウビタキ、ルリビタキ、アカハラ、シロハラ、カシラダカ、田んぼにはダイサギ、コサギ、空にはノスリやオオタカも獲物を狙って現れます。

秋の野草たちは、可憐かわれんな小さな花をつけるものが多いようです。夏の暑い時期に大きく華やかに咲く野草たちとは、趣おもむきが異なるように感じます。ユウガギク、シラヤマギク、ツリガネニンジン、

アキカラマツ、ミズヒキ、ポントクタデ、シロバナサクラタデ、ミゾソバ、アキノタムラソウ、ヤマハッカ、ヒメジソなどあげたらきりがありません。

農道を歩くと、木や草の実も目立ちます。コナラやカシのどんぐり、ノブドウやイシミカワなどのつる植物の変わり玉のような鮮やかな色の実、カラスウリの赤い実、スズメウリの小さな白く透きとおった実、アケビの薄紫の実などじっくり見ると新発見があるかも知れません。

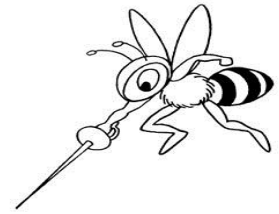
ホタル・アカガエル^の里の林には、きのこがたくさん出ていますが、やたらに採らないで下さい。きのこには毒きのこもあるので注意してください。日本のきのこは、3000種とも5000種とされていますが、食べられるきのこはあまり多くはないようです。でも、きのこのおかげで林の土は豊かなのです。

秋の谷津は見どころがいっぱいですが、行くときには黒っぽい地味な服装はよいとはいえません。それは危険を招きます。秋はスズメバチが活発に活動しています。スズメバチは黒い色を見ると襲ってくる人が多いのです。明るい色の帽子をおすすめします。谷津にはオオスズメバチやキイロスズメバチというどう猛なハチがいます。【ご注意ください。】

秋も終わりになり、初冬になる頃は紅葉も始まります。

秋の谷津は見どころがいっぱい！ 訪れるたびに見どころが増えていきます。

空気は澄み渡り、空は高くなり、イワシ雲などが浮かび、季節は確実に進んでいきます。まだお話することはたくさんありますが、後は皆さんで谷津に行って感じてください。季節の移り変わりがきくと体験できます。(小さい秋をみつけるチャンスです。)



(環境レンジャー 染谷迪夫)

<地域と暮らしの話題>

◎「小・中学校科学作品展」は今年も大盛況でした！

9月10日・11日の2日間、水の館で市内小中学生の夏休みの作品展が開催されました。

猛暑が続いた今年も、論文、工作、標本で出品総数が636件と大盛況でした。初日は真夏のような暑さでしたが、親子連れや、お友達同士、おじいちゃんやおばあちゃんまでも興味深げに1点1点大切そうに見学していました。入賞作品はもちろんですが、どの作品も一人一人の思いが伝わってきます。動かせる作品を操作しながら、「すげっ！」と声を上げている少年もいるかと思えば、幼稚園児ぐらいの子に「食べちゃだめだよ」と注意しているお父さん。その先にはぎっしりとミンミンゼミのヌケ殻が厚紙に貼り付けられしかも3層に作られたものもあり、お母さんは「すごい」と身を引いていました。そうかと思えば、5・6年生の女子たちを虜^{とりこ}にしていたのはマイケルジャクソンのスライドショー、楽しげに作品の扉^{のぞ}を覗いていました。展示作品テーブルに顔が届くか届かないかの小さな見学者はお兄さん、お姉さんたちの作品に目を輝かせ、見入っていました。

自由工作の中には「全自動！段差を乗り越えるロボット」という大震災から感じ取ったと思われる子どもの知恵や「省エネ」をテーマにしたアイデアがいくつもありました。





会場いっぱいの作品と来場者の皆さん

毎年、子どもたちの作品からの大きなエネルギーが、多くの人たちに元気を与えています。

*入場者数は、2日間で子ども961人、大人1454人合計2415人でした。

(環境レンジャー 矢竹晴子)

◎夏休み環境学習「紙粘土工作」～空き瓶がマイ花瓶に变身～

夏休みのたけなわ8月2日はやっぱり蒸し暑い日でしたが、アビスタ工芸工作室には、次々と13人のちびっこ芸術家が集合しました。

初日の当日は、まず、用意された空き瓶や空き缶からこれと思ったものを選び、環境レンジャーから簡単な注意事項を聞いたのち、すぐに創作に入りました。

選んだビンとにらめっこして何を作るか思案気な子、隣のお母さんと相談しながら、紙粘土をこね始めている子、早くも部分品を指先で形づくりしている子……。広い工芸工作室は、創作気運いっぱい、熱気が満ちていました。作品は野鳥図鑑を参考にしたフクロウだけでなく、中には怪獣にどんどん变身してゆく自由工作もありました。鳥をとまらせる枝が下がらないようビンのふたで支えたアイデアや少しくりぬいて透明な部分をアクセントにした工夫など楽しげで独創的な見事な出来栄でした。あっという間の2時間でした。



お母さんも思わずお手伝いして・・・



ちびっこ芸術家と作品の勢揃いです

乾燥待ちのため、一週間後の9日は、いよいよ色づけ作業です。

アクリル絵の具は、すぐ乾き、重ね塗りもできるのでみなさん大胆に一気に筆が動いていました。

やはり、白い粘土がカラフルな花瓶に变身してゆくのは見事でした。混ぜた結果の色が気に入らなくて何度も再挑戦している子の根気強さにも感心しました。

支えがなくてもフクロウがとまった枝は

ちゃんとしていました。怪獣もちょっぴりかわいい怪獣になっていました。だれのまねでもない自分だけの“マイ花瓶”のできあがりでした。

作品をならべ記念写真を撮ってから、みなさん、大切そうに持ち帰りました。

(環境レンジャー 松本勝英)

◎夏休み船上学習 ～船から見える手賀沼のふしぎ～

当日7月30日は、猛暑のさなかで、参加者が集合してくれるか、ちょっと心配でしたが、その心配をよそに当日の飛び入り参加を含む21名に環境レンジャー8名が加わり、乗船前に資料の配布と手賀沼の成り立ちや船中での安全確保についてお話し、定刻10時に出船しました。



乗船前のきんちょうのひととき

船の中では、さっそく資料に沿って植物、鳥、水質のことやわたしたちの日常生活と手賀沼とのかかわり、沼周辺の施設、建物について学習が始まりました。

真夏で、沼では水鳥が少なかったけれど、カワウが船のすぐ横を飛んでいたり、間近で魚をくわえたり、驚いて飛び立つ様子は沿岸からではなかなか見られないので、そのたびに歓声があがっていました。

船長さんの計らいで、船をハス群落へ入れてくれたため、目の前に大きなハスの葉が生い茂り、ピンクの花が満開で迫力満点でした。

船内では、ヨシ、ヒメガマ、マコモ、ハスの実の実物を見てもらいながらの説明を行いました。ハス田脇の網に気づいた方が資料から「張網」だと知ってくれたこともあり、乗船前にお話しした「手賀沼のふしぎ」とともに皆さんの理解をお手伝いできたようでした。

途中、根戸下と沼中央で採取した沼の水を使って、下船後、COD測定、透視度テストも体験してもらいました。沼の水の浄化を皆さんの普段の生活のなかでできることを考えて欲しいとお願いしました。

参加者から、水鳥の多い季節にもやってほしいとの感想があり、楽しい内容がもりだくさんで有意義な、手賀沼をほぼ一周する約一時間の船上学習でした。



これがマコモです、など船上学習

(環境レンジャー 竹達智子)

<ネイチャーイン実施報告>

◎「ホテルと鳴く虫鑑賞」レポート

例年のように集合場所は東我孫子駅前でしたが、夏祭りで多くの人で賑わっていました。受付は、少し住宅寄りの奥まった所で開始。今回は、広報紙掲載前にホームページでの申し込みもあり募集人数をはるかに超え106名になり大いに盛り上がりました。

5班に分かれ定刻の7時に夕暮れ道を歩き始めましたが、長い行列となり説明者の声も届きにくいくらいでした。月明かりはありませんでしたが足元はほのかに見えて、行きは懐中電灯をあまり使わずに進んでいくことができました。



葉にとまったヘイケボタル

今年は谷津入口付近ではヘイケボタルの光を観ることができませんでしたが、やがて湿地の草むらやホタル・アカガエルの里では数十頭を確認し夜空にも右へ左へと飛んでいる姿を見ることができました。小声でワイワイと弾む声があちらこちらで。親子やグループ、ご年配のご夫婦、中学生などが参加していました。ホタルを確認すると歓声が上がりお母さんもルンルン気分であれしそうです。でもすぐ誰もが声をひそめるのがふしぎです。ホタルを両手で捕まえ、子どもの手の中へ・・・少しの間手許で観察し放してあげていました。身近で観た小さなホタルに別れ惜しそうです。

星もなく無風状態で少し湿った肌寒い夜で“ホタル日和”になり約120頭のホタルに出会えたことに、みなさん満足されて帰って行きました。

コオロギの仲間のキンヒバリ、ウマオイの鳴き声がしていました。

(環境レンジャー 矢竹晴子)

◎「マイ巣箱外しと調査」～今年の営巣実績は？～

8月21日、時折霧雨が舞う、あいにくの天気。地面は濡れているので、滑らないよう注意しながらの巣箱外しでした。巣箱外しは、昨年と同様、①巣箱を外す人 ②外した巣箱を運ぶ人 ③その巣箱を洗う人 に作業分担して行いました。



ずらりと並んだマイ巣箱と皆さん

外した巣箱は、一つ一つ、染谷および間野レンジャーの説明を聞きながら観察しました。結果は、シジュウカラが巣作りしたのは、5個、スズメが巣作りしたのは2個でした。その内のひとつは、シジュウカラの巣の上にスズメが営巣している“2階建て”でした。また、巣作りしなかった巣箱の中には、林の中で生息する多くの生き物たちが入り込んでいました。ゴキブリが多かったのですがほかではヤモリ、ガ、小型の白いアリなどであらためて多くの生き物が林の中にはいるのだと気づかされました。

なお、残念にも25個のうち1個は^{あとかた}跡形もなく、無くなっていました。今回のシジュウカラの巣作り状況から分かったことをまとめると、だいたい次のとおりです。



巣材の好みが違うのですね

- ①前面が開けた箇所を好む（薄暗い林間は好まない）
- ②細くなければ樹種はあまり拘らない
- ③人の出入りには影響をあまり受けられないようだ
- ④巣箱は風でぐらぐらしないよう固定する
- ⑤高さは1.8～2メートルが望ましい
- ⑥概ね4個に1個（25%）^{おおむ}営巣実績が得られる

←シジュウカラ（下）とスズメ（上）2階建ての営巣跡

(環境レンジャー 上野啓治)

◎「将門伝説の地の巨木を訪ねる」実施レポート

成田線新木駅から湖北駅にかけては、国道356号線を挟んで、平将門伝説や史跡にまつわる巨木が20数本もひっそりと訪れる見学者を待ち受けています。巨樹・巨木の定義は1988年に調査を行うにあたり、「地上から130cmの位置で幹周りが300cm以上の樹木を対象とする」と定め現在では、これが巨樹・巨木の一般的な定義になっています。(巨樹：幹周り500cm以上、巨木：幹周り300cm以上)

今回観賞の巨樹・巨木は、長福寺：イヌマキ、葺不合神社：イチョウ・スダジイ・ムクノキ、香取神社：ケヤキ・スダジイ・ムクノキ、ヤックス(yac's)：カヤノキ、地藏院：イチョウ、日秀観音寺：イヌマキ、将門の井戸：タブノキ、将門神社：イヌマキ・スダジイ・タブノキ、中野家：スダジイ、中峠不動堂照妙院：ムクロジ、10箇所。

9月24日(土)、台風15号の台風一過の快晴で絶好の散策日和になりました。集合場所の新木駅北口には総勢30名が集まり、コースや注意事項などの説明の後、最初の訪問先、長福寺へ賑やかに出発しました。

主な訪問先の由来、レポートを以下に述べます。

葺不合神社ではイチョウの巨木2本、どちらが太いか実際に計測して太さ当てクイズを行い、「実際にやってみて驚いた」など巨木を実測することにより、深く感動があったと思われます。拝殿のうしろ一段高い



葺不合神社でのイチョウ実測の様子

ところに本殿があります。この本殿は元宇宮前の明神の森にあった沖田神社の本殿として建立されたもので、合祀のときに村人によって曳かれてきたということです。四面の壁面には、八岐大蛇退治、三韓征伐、天岩戸、神武東征の見事な浮き彫りが施されており、是非とも、後世に伝えたい逸品であり、保存状態の持続が望まれます。残念ながらこの日は立ち入り禁止の柵があり見学できませんでした。

ヤックスの駐車場には、朽ちて孤独なカヤノキが昔の雄姿を偲ばせてくれました。

日秀観音寺は慈愍山観音寺といい、曹洞宗のお寺。本堂には本尊釈迦如来が安置され、観音堂には、平将門の守り本尊と伝えられる聖観世音菩薩が安置されています。境内にある首曲がり地藏は、成田山では将門調伏の祈祷を行ったため、将門を敬愛する日秀の村民が嫌って故意に、成田山とは反対の方向



強い日差しの下でも、薄暗い将門神社の巨木スダジイ

に首を曲げて作ったものと言われています。以後日秀の土地の人たちは成田山には参詣しなくなったということです。

少々疲れが足に感じるころ満開のヒガンバナがわれわれを出迎えてくれました。

将門神社、平将門の霊が遺臣らと手賀沼を騎馬で渡り、朝日が昇るのを礼拝したといえます。社殿は石祠造、鳥居の神額には「将門大明神」と彫られています。

今日最後の訪問先は、中峠不動堂照妙院のムクロジの巨木です。固い緑色の実がいくつも落ちていて一昨日の台風の爪痕が感じられましたが幹はしっかりと何事もなかったように泰然としていました。

(環境レンジャー 染谷廸夫・吉田知之)

＜これからの環境レンジャーの予定案内＞

環境レンジャーが実施する、環境に関する観察会や作品づくりや作品発表会についてのお知らせです。

皆さん、どんどん参加してください。楽しいよ～！！

★手賀沼賞 エコ・子ども教室(手賀沼賞受賞作品発表会) <子どもまつりに参加>

今年の我孫子市小・中学校科学作品展手賀沼賞受賞14作品から環境レンジャーが選んだ6作品の発表会です。お友達が実体験しながら学んだものは？！ぜひ見て、聞いて、感じてください。

・・・10月16日(日) アビスタ第一学習室

★谷津ミュージアム自然観察と谷津まつり

秋の谷津は彩^{いろどり}豊かで、おいしい空気とたくさんの料理が満喫^{まんきつ}できます。

生き物たちは賑わいながらも、そろそろ冬^{ふゆ}支度^{したく}をはじめています。

・・・11月5日(土) 谷津ミュージアム

★マイ巣箱作り、ネイチャークラフト(森の工作)

・マイ巣箱作り:シジュウカラ用の巣箱を作り、お家の近くに架けてください。春まで観察しましょう。

・ネイチャークラフト:木の実や小枝を材料に“森の工作”を楽しみましょう。

・・・11月19日(土) アビスタ工芸工作室

★マイ巣箱架けとミニ探鳥会

去年作った巣箱(保管中)を、シジュウカラの巣づくりにお手伝いします。そのあと、北からやってきたカモたちを探してみましよう。水鳥が一年中で最もにぎやかな手賀沼には楽しさ一杯です。

・・・12月23日(祝) 手賀沼公園周辺

*くわしくは毎月の「広報あびこ」でご案内します。それぞれ「広報あびこ」で確認してください。

＜しらべ学習＞

身近な帰化生物たち ～タンポポからコブハクチョウまで～

私たちの周辺には、帰化生物がたくさん生育しています。

「帰化生物」とは、ちょっとむずかしい言葉ですが、分かりやすく言うと外国からやって来て野生化し住みついた生物のことです。

江戸時代末期か明治時代以降移入のものを指すのが一般的です。

生物ですから植物、昆虫、魚類、鳥類・・・哺乳類まで生きもの全部に当てはまります。

では、現在どの位の種類の帰化生物がいるのか、まず植物から紹介しますと、約800種類が知られています。春になると家や学校の庭や道路端でよく目にするタンポポが代表格ですね。

タンポポは黄色の花を包んでいる緑色の額が二層になっていて、二層とも上向きなのが日本のタンポポ、外側の額が下へたれさがっているのがセイヨウタンポポと呼ばれている「帰化植物」なのです。最近では日本のタンポポ(たとえばカントウタンポポ)は、特に都会ではあまり見ることはできません。

今は秋ですが、我孫子でも黄色の花といえばセイタカアワダチソウがその代表格です。同じ北アメリカ原産のブタクサもハルジオンもキク科の帰化植物です。



アメリカといえばアメリカザリガニが有名ですね。では次に魚・^{こうかくるい}甲殻類を見てみましょう。

アメリカザリガニは、今から約100年前にウシガエル（これも外来の食用ガエルで、手賀沼でもボーボーと鳴いている）の養殖用エサとして輸入されたのが始まりと言われています。手賀沼や周辺の田んぼ、畔、水路でけっこう^{たやす}容易く獲れる身近な生きものです。

手賀沼では、多くの釣り人がタナゴを釣って楽しんでいますが、よく見るとたいがいタイリクバラタナゴで、以前の手賀沼にはいなかったタナゴです。在来のミヤコタナゴやゼニタナゴはめったに会えない希少種です。



メダカは日本産淡水魚の中で最も知られた小型種で、童謡“メダカの学校”で有名です。ところが川の中で群れているのを捕ってみるとカダヤシという帰化魚のことが多いのです。メダカは背ビレが尾ビレに近くにあるのでカダヤシと区別が付きません。このメダカもごく限られた水路にしか生息していません。カダヤシは名前のとおり「蚊の幼虫のボウフラ退治」のためアメリカから移入されたもの

が野生化したものです。手賀沼でおなじみのコブハクチョウも実は「帰化鳥」のひとつです。いつの間にか定着し毎年春にかわいい親子連れを目にします。

昆虫の世界でも、ゴキブリやセイヨウミツバチが知られています。モンシロチョウだって江戸時代に入ってきて“帰化”したものです。これらを含めて約250種もいるそうです。

東京をはじめ千葉、神奈川の首都圏では、魚類で20種、両生・は虫類が7種、哺乳類12種に加え鳥類は、帰化進行中のものを含めると75種にもものぼり合計120種近くの外国産せき^{ついで}椎動物が記録されているそうです。日本全国に広げると飛躍的にその数は増えてしまうでしょう。

帰化生物すべてが在来種との競合相手となり脅威^{きょうい}になるわけではありません。でも「在来種にダメージを与える侵略者」と誤解されやすいのも、次のような事例がたくさんあるからです。

ブラックバスにより淡水魚や昆虫（水生幼虫）が激減したこと、セイタカアワダチソウがはびこってススキがめっぽう少なくなっていることなどの実害例が全国的に報告されています。

外国産の生きもの（ペットを含む）を飼うことは決して悪いことではありませんが、帰化生物が増えることに手を貸すようなこと、たとえば手にあまったり飽きてしまって野外に放すことはしてはいけません。放たれた彼らに対し不幸な運命を強いることにもなります。環境に順応できなければまもなく死んでしまうでしょうし、定着できても生きるために在来の生きものを食べれば害獣・害虫扱いされてしまうでしょう。

環境とりわけ生態系は、突然に新たな侵入者があると競争、捕食や交雑といういろいろな影響を受けてしまうのです。

参考文献：帰化動物のはなし

中村一恵著 情報堂出版

日本の帰化生物

鷺谷いづみ・森本信生共著 保育社

淡水魚

森 文俊・内山りゅう共著 山と溪谷社

(環境レンジャー 松本勝英)

【編集後記】

記録破りの猛暑が、やっと去って手賀沼はじめ谷津や本号で紹介した我孫子中に“秋”がやってきました。

夏休みの自由研究、工作、船上学習、ネイチャーインみんな元気に乗り切りましたね。

これからも年内には、まだまだ楽しい企画が目白押し（たくさん）に予定されています。

おいおい参加して、我孫子の秋を見つけましょう！

(たまつけ 編集子)

我孫子市環境レンジャー通信
No. 47

たまつけ

発行：我孫子市環境レンジャー
企画広報チーム
連絡先：我孫子市役所手賀沼課
TEL. 04-7185-1484

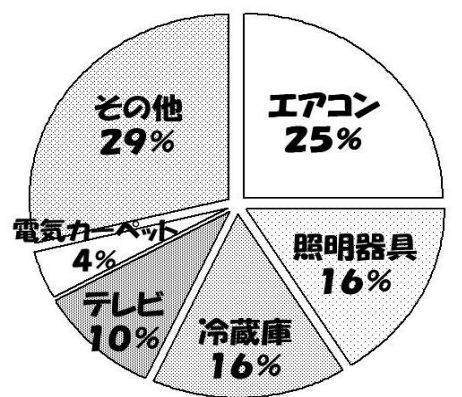
たまつけとは1960年頃まで手賀沼でもたくさん棲んでいたカラスガイのことです。今はほとんど見られません。環境レンジャーは我孫子の自然環境を市民に伝え、市民といっしょに考え、守り育ててゆくために結成されました。みなさん、いっしょに美しい我孫子を守り育てましょう。

<季節の話題> 環境にやさしい生活「節電の知恵」あれこれ

この夏は大震災の影響から電力不足が予想され、各家庭に15%以上の節電が求められています。一方、世界を見ると今、異常気象（暴風雨、干ばつ、洪水など）が多発し、感染症患者（マラリア、コレラなど）が増え、氷河融解や海面上昇で陸地が失われる現象が起きています。これは石油・石炭など化石燃料の大量消費で、地球温暖化の主な原因の一つである二酸化炭素が空気中に増加し、温暖化が着実に進んでいるからだといわれています。私達は日々、エネルギーに対する生活を切り詰め大切に使い、温暖化ストップに協力したいですね。そこで今回は、家庭での「節電の知恵」あれこれのお話です。

節電は消費電力量(kWh)を減らすこと。

これは製品電力(kW)と利用時間(h)の掛け算ですから、電化製品の効率化と利用の工夫の両方でおこないます。まず、現在使用の家電製品は壊れるまで上手に使い節電します。買い替えをする時も家族構成や生活様式を考え、最適なサイズや容量で、省エネに優れたエコ家電を選びます。主要な家電製品はカタログやお店で、省エネ性能の比較に役立つ五つ星(★)や年間の目安電気料金などが表示されていますから、比較は容易です。特に15年以上も利用したエアコンや冷蔵庫、10年前の薄型テレビは、この間、省エネ性能が50%も向上していますから、買い替えは大きな節電になります。



家庭一世帯あたりの年間全消費電力量4,734kWh
'08年資源エネルギー庁調査報告

次に家電製品の利用方法や設置の工夫で、運転時間を短くする節電術です。

エアコンは節電の大本命、年間全消費電力量の25%、真夏の午後2時頃は家庭電力の53%も消費しています。でも暑いときに我慢は禁物、省エネモードに設定、そして温度を冷え過ぎない28℃にして、冷気吹き出しは水平に向け、ちょっと涼んで停止がコツです。扇風機と一緒に利用は、一層、涼感があります。室内熱中症には注意です。室外機は木陰で風通しが良い所に設置し、室内機フィルターの汚れはこまめに洗います。窓からの熱侵入は、カーテンと部屋外側によしず・すだれ・グリーンカーテンなどを設けてシャットアウト、特に西日が射す窓に効果発揮です。ドアや窓の開閉は少なくして、換気回数を最小限に抑えると、なんと40%以上も節電効果が得られます。

照明器具は誰もいない部屋や不要な照明を、手早くこまめに消すのが決め手。住まいの明かりは演出も大事で、適度な明るさを確保、人がいる箇所だけのスポット照明、階段・トイレは人を感じて自動点滅など、快適さを保ち節電です。電球型の蛍光灯やLEDに換えるのも手軽に節電です。

の白熱電球は、光調節装置の使用で使います。そして器具の汚れは明るさ低下、時々清掃して回復させます。

冷蔵庫は年中無休の頑張り者。効率よく冷やして節電する秘訣は、設置は日光や厨房器具近くを避け壁から離し、庫内温度は強から中以下に変更、製氷は夜間におこないます。庫内冷氣は逃がさないように、扉の開け閉め回数を減らし、開けている時間も手早く、扉のパッキン破れも注意です。モノは常温にして入れ、出したモノは直ぐに納め、庫内を整理し詰め過ぎなければ、合計で約10%も節電が出来ます。

薄型テレビは省電力モードに設定、更に、画像の明るさを下げると、節電と寿命長持ちの両得です。

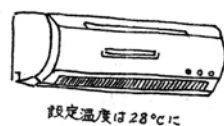
掃除機で畳やフローリング掃除は弱運転でOK。強と吸込みがあまり変わらないのに約75%も節電です。片付けをしての掃除は、ぐ〜んと時間が短くなります。**洗濯機**は容量の80%くらいのまとめ洗いが効率的、40%の2回洗濯と比べると約10%

も節電します。**電気炊飯器**はサイズに合った容量を一度に炊き、小分けし冷まして冷蔵庫に保管、電子レンジで温めて食べるのがお得です。**温水洗浄便座**はフタを閉じるだけで10%も節電、便座暖房や洗浄水は冷たくない温度設定にし、数時間の留守は電源を切ります。

ここでクイズ、家庭でわずか1Wの電力を、24時間、365日使い続けると電気代は・・・何円？
 答えは約200円。家電製品はリモコンで電源を切っても、主電源がついていると電気を消費（待機時消費電力）しています。標準家庭でこれが約33W、年間約285kWhと全消費電力の約6%を占め、6,600円も余分に電気代を支払っています。電話機や防犯カメラなど、機能から常に電気を消費する機器もありますが、リモコンで電源を切るだけでなく、主電源でスイッチを切るかプラグを抜くかして節電もします。

最後に政府要請の節電時間帯は午前9時～午後8時、日中のエアコンは極力控え、洗濯や掃除、炊飯、IHヒーター調理、アイロンなどの家事は、朝か夜におこない、差し迫った大停電を防ぎたいですね。

(環境レンジャー 桜井 潤)



<地域と暮らしの話題> 「身近な竹」について

我孫子市内では、商店街から少し離れると、どこにでも目にするこができる竹林。

千葉県内には、モウソウチク・マダケ・ハチク・メダケなどが分布していますが、大型の竹であるモウソウチク(*1)・マダケ(*2)の林が拡大しています。

食用として美味で「タケノコ」といえばモウソウチクを指すことが多いようです。5月頃からタケノコご飯など食卓におめみえしていますね。

竹は日本人にとって昔からザルやカゴなど生活用品の材料として欠かせないものでした。

戦後、プラスチックなどの代替品が普及し竹製品は減少の一途をたどっています。加えて里山の



柴や薪が使われなくなると、竹林を含めた里山は管理されなくなり森林などへの竹の侵入、拡大が急速に進行し、他の樹木の生育をおさえるなど様々な問題が起きています。

その一方では、竹の利用も考えられています。

例：①民具・工芸品（竹は丈夫で長持ちするため竹ザル、竹カゴなどナチュラル志向製品が注目されています）

②竹垣

③竹炭・竹酢液ちくさくえき

④竹ベンチ

⑤竹粉の堆肥たいひ、土壌改良資材

⑥バイオマスエネルギー（燃料）

⑦竹プラスチック

* 1. モウソウチク：高さ 20m以上 直径 10～18cm 日本最大の竹。中国原産で 18 世紀前半に日本に渡来。

* 2. マダケ：高さ 10～20m 直径 8～12cm ふし節が 2 輪で葉の大きさはモウソウチクの 3～5 倍。
（写真はいずれも我孫子市新木）



里山の竹林：春にはタケノコ採り！



放置された竹林は荒れてしまい昼も暗い

（参考：竹林の拡大防止と竹材利用 千葉県森林研究センター 平成 20 年 2 月）

（環境レンジャー 矢竹晴子）

<ネイチャーイン実施報告>

◎ Enjoy 手賀沼！に参加 ～”ぬり絵をしてみよう”～

5月8日、夏のように暑い日曜日に Enjoy(エンジョイ) 手賀沼が開催されました。水の館の前にテントをはり、環境レンジャーは鳥のぬり絵を用意しました。バン、カワセミ、ヨシキリ、シジュウカラ、ツバメ、マガモは手賀沼でも見られる鳥ですが、いざ色をぬるとなるとよくわからないですよね。そこで本物の鳥そっくりの色をぬった見本を準備。その見本を見ながら、「オオバンの目は赤」とか「マガモの首は複雑な緑」などと確認しながら色をぬりました。参加してくれたの



お母さんもいっしょに楽しそう

はおもに小学生でしたが、なかには2才の女の子もいて、みなさん楽しんでくれました。見本として使いたいくらいじょうずな仕上がりのももたくさんあり、簡単に”ぬり絵”とあなどれない作品ができあがりしました。参加者には野鳥カードをプレゼントしました。

(環境レンジャー 竹達智子)

◎ 5/29 「初夏のかまくら道散策」

前日からの降雨が止まず、足元が荒れていることが予想されましたので、残念ながら中止にさせていただきます。

◎ 6/18・19 「市民活動フェア in あびこ 2011」 レポート

6月18日と19日の両日、我孫子市内で活動している、70をこえる団体が参加して、市民活動フェアが行われました。市民活動、学校、企業、市などの団体が環境・文化・スポーツ・子どもなど8つの分野にわかれて、それぞれの日頃の活動を紹介しました。環境レンジャーはアビスタ内の環境の分科会で、環境レンジャーに



ついでのパネル展示をしました。

環境分科会で展示されていたのは、竹や松ぼっくりを炭にしたもの(炭は水じょうかを浄化したり、においを消す効果があります)、生ゴミから作った肥料(生ゴミを肥料にすることでゴミの量を減らせるし、安全な土や野菜を作ることができます)、壊れたり古くなったりしたかさの布で作ったエコバッグなどでした。

中央学院高等学校の生物部の研究発表は、時間と手間をかけて丁寧ていねいに観察したことがわかる、すばらしいものでした。我孫子の岡発戸・都部の昆虫を調査した結果とチョウの標本、絶滅危惧種ぜつめつ き ぐしゆのアサヒエビネ(植物)をシャーレの中で育てて自然に返す実験、房総の沖ノ島おがさわらしよとうと小笠原諸島の父島にある海岸の植物を比較した研究が展示されていました。チョウの標本で興味深かったのは、同じ種類なのに色が違う(緑と紫)のは、それぞれが太陽の光を浴びた時に保護色になるように進化したためだそうです。(草の上と木の中などそれぞれ住む場所が違うのでしょうか?)また、沖ノ島と父島の植物にも、同じ種類のものがありますが、それぞれの土地に合うように進化して少しずつ違うという説明を聞いて、その土地に根付いて生きるために自分を変化させてゆく生物の強さを感じました。

また、今回は、3月11日の大地震で我孫子市内最大の被害があった布佐地区から「布佐 花の会」が震災に負けず初参加してくれました。“生ゴミは宝です!”のパネルには、庭いっぱい咲いている2500株ものチューリップが見事でした。“生ゴミは立派な地域資源です”のコメントが印象的でした。

午前と午後毎回、環境についての問題に答えていくビンゴゲームが行われました。ビンゴになるとエコバックやゴーヤ苗木などの景品けいひんがもらえるので盛り上がっていました。景品の中には環境レンジャーの一人が育てたクワガタムシもあって、子供達に人気でした。

色々なことを学びながら、楽しく過ごした二日間でした。

(環境レンジャー 竹達智子)

<これからのネイチャーインなどの予定案内>

環境レンジャーが実施する、環境に関する観察会や作品づくりや作品発表会についてのお知らせです。皆さん、どんどん参加してください。楽しいよ～！！

★夏休みの環境学習「船から見る手賀沼のふしぎ」

遊覧船に乗って間近で見る手賀沼。さて、あなたは何を発見する？

.....7月 30日（土）手賀沼にて

★ホテルと鳴く虫鑑賞

我孫子でホテルが見られるって、知ってた？ホテルの光は神秘的で美しい。我孫子のホテルはゲンジボタル？それともヘイケボタル？当日、環境レンジャーに聞いてみよう。

.....7月 30日（土）谷津ミュージアムにて

★夏休みの環境学習「紙粘土工作」

捨ててしまえば、ただのゴミ。あきびんを花びんとして復活させよう！環境レンジャーと一緒に鳥の花びんを作ります。

.....8月 2日（火）粘土で形づくり

8月 9日（火）色付け

どちらもアビスタにて

★巣箱のとりはずし

去年の冬にかけた、小鳥（シジュウカラ）の巣箱をみんなでとりはずします。シジュウカラが卵を産んで、ヒナが巣立っているか？それとも不発か...？

.....8月 21日（日）五本松公園にて

★将門伝説の地の巨木を訪ねる

巨木と巨樹の違いは何？我孫子に残る巨木を見て歩きます。平将門ゆかりの地だと言われている場所もたずねます。

.....9月 25日（日）

★「エコ・こども教室」

科学作品展で手賀沼賞を受賞した作品から、環境レンジャーが選んだ6作品の発表会。あなたの作品が選ばれるかも！？

.....10月 16日（日）アビスタにて

*くわしいお知らせは行事予定直前の「広報あびこ」と我孫子市ホームページに出ますのでそれぞれ確認してください。

特に、事前申し込み(TEL)が必要なもの、年少者には保護者同伴などの条件つきものがありますので注意してください。

<しらべ学習>

2000年以降市内で見られるようになったチョウ



我孫子市ではこれまでに78種類のチョウが記録されています。かつては田園風景が広がり普通にみられたチョウも都市化が進み、その生息地の縮小等で生息が困難になり、個体数も激減し絶滅危惧種となった種も多くあります。

千葉県の保護上重要な野生生物（レッドデータブック動物編）では、千葉県でチョウ目の絶滅危惧種は37種（我孫子市は28種）が示されています。我孫子市のチョウ類では絶滅危惧種の割合は36%と高く、チョウ類の衰亡が顕著すいぼう けんちよになっています。チョウにかぎらず昆虫全般における多様性および種の生息環境の保護・保全の活動が重要課題とされる時、それを側面から支えるレッドデータブック2011年改訂版が出された意義は大きく、会員はじめ皆さんの一層のご理解を願っています。



稲穂の向こうに広がる岡発戸の谷津

さて、チョウ類の衰亡が顕著となっている一方、我孫子市内に多様な昆虫を含めチョウでは5種類が新たに移入し繁殖しています。これまで市内にはいなかった種で、地球温暖化の影響が大きく働き分布を北に広げているもので、市内で見られるのはうれしいことですが、生態系では問題要因をふくんでおり今後の動向が心配されます。

ナガサキアゲハは分布域がこれまでは三浦半島以南でしたが、我孫子市では2006年市初記録としています。ミカン類を食樹とし、同じ食樹の他のアゲハチョウとの競合が心配されています。

ツマグロヒョウモンの市内初発見は2004年で、2005年以降急速な勢いで繁殖を続けています。研究者の論文によると、温暖化の影響のほかの要因として園芸品種のパンジーしよくさいの植栽の流通拡大による影響が大きいと指摘しています。

アカボシゴマダラ（下のイラスト）はタテハチョウ科で、これまで奄美半島あまみほんとうの特産とされていたが、近年本州本土に分布域を広げ、1998年には神奈川県で確認後、東京都内各地でも多数生息し定着してあります。我孫子市内では2008年8月に根戸船戸緑地よとりやまで世鳥山兄弟（当時小学生）が発見採集して千葉県初記録としている大変美しいチョウです。寄生植物が同属の在来種であるゴマダラチョウと同じエノキで、競合が心配されています。



後ばねに赤色の環状斑があるのが特徴

ムラサキツバメも南方地域を分布域としているのですが、市内青山で2001年に米田少年（現九州大学学生）によって市内初発見しています。現在は市内各地で見られムラサキシジミに似ていますが、違いはそれよりもやや大きく後翅こうしの先端部近くに尾状突起があることです。

ウラゴマダラシジミは南方系ではないためこれまでのチョウとは事情は違いますが、市内に新しい種類として付記しておきます。現在は岡発戸の谷津と根戸でイボタの木から発生しています。

これらは国内の外来種ですが、市内で長年発生を続けている在来種くちくを駆逐するかも知れず、在来

生態系を崩す^{くず}要因となる恐れもあるので、県内および近県情報に耳を傾け注意して見ていく必要があります。

(寄稿：岡発戸・都部の谷津を愛する会 専門委員 青木直芳さん)

*写真とイラストは環境レンジャーが挿入いたしました。

環境レンジャーからのお知らせ

我孫子市環境レンジャーは、今から12年前の1999年発足しました。

手賀沼をはじめ、自然環境の大切さをみなさんに知ってもらうことが主な目的です。

我孫子市手賀沼課募集の1年間の養成講座を経て、市長が認定したボランティアのグループです。

今春、四期生が誕生・始動し現在、第一期から四期生で、総勢26名が活動しています。その体制が今年度から下記のような「チーム編成制」になりましたので、紹介いたします。

- ① 企画広報チーム : 通信紙「たまつけ」を年4回発行します。
- ② ネイチャーインチーム : いろいろなネイチャーインでのガイドをします。
- ③ 環境学習チーム : 小中学生を対象にした環境学習のお手伝いをします。
- ④ スキルアップチーム : レンジャー自身の知識向上と安全教育をします。

以下、それぞれのチームからのメッセージです。

[企画広報チーム]

いつも「たまつけ」を読んでくれてありがとう！この「たまつけ」を作っているのが、私たち「企画広報チーム」です。毎回「たまつけ」で取り上げる話題をみんなでお話し合い、取材に出かけたり本を調べたりして記事を書き、時には各分野の物知り博士に原稿をお願いして、この「たまつけ」は出来上がっています。

私たちはいつも思っています。みんなに自然の素晴らしさをたくさん知ってほしいと。

そしてまた、私たちは思っています。自然の弱さやはかなさも知ってほしいと。

植物や動物は、人間みたいに言葉で「うれしい」とか「かなしい」とは言いません。

だからついつい気がつかない。彼らが笑っていることや、かなしくて泣いていることに。

「どうして笑ってるの?」「なんで泣いてるの?」さあ、その答えを一緒に探しに行こう!

「たまつけ」は、みんなの冒険の入り口さ!



(企画広報チームリーダー 青木恵之)

[ネイチャーインチーム]

ネイチャーインチームは、参加される皆様が自然とのふれあいを体験し、自然を大切にすることを願って、安心して自然観察会などに参加できる体制をととのえております。自然観察会では、トンボやチョウ・野鳥・野に生えている草・花などを楽しく観察しながら、ご案内をしております。

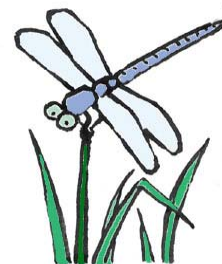
巣箱を皆様に作っていただき、それを公園などに取り付けて、どんな野鳥が巣作りをしたのかを調べることも行っています。

ぜひとも参加してください。

我孫子市のホームページにネイチャーイン(年間行事スケジュール)のご案内があります。

私たちは、一期一会の気持ちで皆様に接して、がんばっていきたくて思いを新たにしております。

(ネイチャーインチームリーダー 吉田知之)



【環境学習チーム】

環境学習は子供たちのなぜ? どうして? を受け止めてプログラムを作って行きたいと思っています。チームには豊富な知識と経験豊かな人材がそろっているのですばらしい企画を作っていると実感しています。学習は文字のごとく学んで習うですが、環境教育、つまり自然から子供達が感じ



たものをはぐくむ手助けをするのが大人の役目だと思っています。

今年度は船上学習やクラフトなどに参加した子どもに満足して帰ってもらえる内容をチームで検討していくよう努力していきます。むずかしいことではなく、あそびの中から環境とは? 自然とは? を子供達が体感して欲しいプログラムを提供できる学習チームでありたいと願っています。

(環境学習チームリーダー 島藤紘子)

【スキルアップチーム】

我孫子市環境レンジャーは1999年に発足し、今年で13年目を迎えました。

そして、昨年度1年間、養成講座で研修を重ねてきた第四期生が、4年ぶりに環境レンジャーとして新たに加わることになりました。



左のキャラクターは、環境レンジャー発足当時のイメージキャラクターです。キャッチフレーズは『自然はまだある』です。環境レンジャーは、我孫子の自然環境を伝え、考え、守り、育ててゆくために結成された組織です。

スキルアップチームは、今年度から編成されたチームですが、たくさんの環境ボランティア団体の方々の方々の努力とともに守り育てられた我孫子の自然環境を、次の世代に残し『我孫子の自然はまだまだある』ということ伝えていきたいと思っています。

(スキルアップチームリーダー 継岡伸彦)

【編集後記】

記録破りの猛暑が、またやって来そうです。

福島原発事故が加わり「節電」が例年以上に社会的課題になっています。昨夏比15%節電の目標を私たちの生活のなかで、どうすればクリアできるのか? 本号のトップ記事にしました。

次いで、身近な植物“竹”に注目してみました。最近は七夕も7月の定番行事になっていませんね。竹馬で遊ぶ子供も見られません。市内の竹林もやや乱れています。ちょっと見直してみたいかがでしょう。

ネイチャーイン実施報告は「かまくら道の散策」が降雨で中止になりましたが、盛大だった「Enjoy 手賀沼!」と「市民活動フェア in あびこ」に環境レンジャーが参加したレポートにしました。

行事予定案内は、10月のものまで一気にとりまとめ、ご案内しました。

今、谷津は昆虫たちの天下です。その中でも本号ではチョウを取り上げました。チョウの世界にも生息環境の変化に伴う種の分布変異が現れているという内容です。

最後に、私たち環境レンジャーのPRを「第四期生始動」として紹介させていただきました。

「節電」は大切ですが、我慢しすぎずに、熱中症にはくれぐれも注意してください。 (たまつけ編集子)

我孫子市環境レンジャー通信
No. 46

たまつけ

発行：我孫子市環境レンジャー
企画広報部会
連絡先：我孫子市役所手賀沼課
Tel.04-7185-1484

たまつけとは1960年頃まで手賀沼でもたくさん棲んでいたカラスガイのことで、今はほとんど見られません。環境レンジャーは我孫子の自然環境を市民に伝え、市民と一緒に考え、守り育ててゆくために結成されました。みなさん、いっしょに美しい我孫子を守り育てましょう。

<季節の話題>

ゆうゆう公園に春

3月6日、天気予報では4月上旬の気温になるとのことでしたが、まだ薄着には早いようです。公園は風もなく穏やかな時間の中、少年野球チームが試合をしたり、家族連れで草野球を楽しんでいる風景があちらこちらに見受けられました。寒さから開放され伸び伸びしているようでした。



空には、ヒバリが春の訪れを待ちわびていたかのように高く高く飛びながらさえずり、そしてその上の方には、ミサゴの姿も見ることができました。

足元には、ブルーの星を散りばめたようにオオイヌノフグリ（*）が咲き誇り、その隣にはシロツメクサが葉を広げ、オドリコソウの可憐なピンクの花、そして黄色の鮮やかなタンポポの花と既に種になった綿毛を観ることができました。まだ枯野の中に緑が点在している様子でしたが、対岸の木々は芽吹きをして、ほんのり赤みがかっている風景を楽しむことができました。

（*）オオイヌノフグリは、別名ヒョウタングサ、テンニンカラクサ（天人唐草）などと言われ、千葉県の柏あたりではホシノヒトミ（星の瞳）とよぶ方言がある。



（オオイヌノフグリ）

参考図書・・・植物名の由来 中村浩著



（タンポポ）

（環境レンジャー 矢竹晴子）

<地域と暮らしの話題>

手賀沼検定試験体験レポート

第一回手賀沼検定試験を受けてみた。

受験場所は手賀沼親水広場(水の館)で3月6日に開催され、受験生は約80名の頼もしい老若男女^{ろうじゃくだんじょ}。受験票を提示して受付を済ませ、試験開始までの間、ぼんやりと時を過ごす。

試験官の開始合図とともに、皆さん一斉に試験問題を凝視^{ぎょうし}することになった。

出題は一般知識(地理問題を含む)・自然環境・水環境(水質問題を含む)。

問題は30問、正解数により、ランクがあり。手賀沼博士 正解数29-30、1級 正解数25-28、2級 正解数19-24、3級 正解数10-18であった。

50分の短い時間であったが、問題の内容が難しく、ああ・・・もっと学んでおけば良かったのにと後悔^{こうかい}することになった。特に、手賀大橋を手賀沼大橋と間違え(「沼」が余分でした。)、うっかりミスで大失敗、1問おしいことを致しました。手賀沼博士には、ほど遠い。

試験結果は、? ではありませんでしたが、手賀沼をこれ以上に汚してはならないと、改めて決意を致しました。それでは、この手賀沼の湖底を「たまつけ」でいっぱいにして、痛くて歩けないほどにするぞ! トライアスロンは疲れても手賀沼を歩いては渡れませんよ。

手賀沼の環境をさらに良くするには、どのようにすれば風景や鳥くん・魚くんにとって、住みやすい環境になるのでしょうか。鳥くん・魚くんにとって住みやすい環境は、人にとっても同じです。そのための水を得るには山を育て、流域の水田面積の減少を食い止め、生活排水対策の強化など。

皆さん一緒に行動をしましょう。一人一人が今すぐ出来る事を! 切に願って。

手賀沼検定試験問題を思い出しました。

(環境レンジャー 吉田知之)

どうする? 手賀沼のハス ~アンケートなど実施! ~

豊かな水鳥が冬の手賀沼のシンボルなら、夏のそれは、やはりピンクに咲き誇るハスの花ではないでしょうか。今そのハスについて我孫子市はじめ周辺地域で、ちょっと話題になっていることを以下に紹介します。

次の文がそのアンケートの趣旨^{しゅし}と内容です。

「手賀沼の南岸、手賀大橋の東側にはハスの群生地がありますが、ここ数年、面積が急激に拡大しています。密生したハスによって岸に近い部分は陸地化し、ハスの花も展望台から見えなくなりました。マコモやアシがなくなり、水鳥も近寄らなくなりました。水面下は太陽光が差さないため、生き物の種類も少なくなっています。「船の運航^{きんぐ}を妨げて危険だ」という声も上がっています。放置すれば、数年後、面積はさらに倍増すると考えられています。



手賀大橋：水鳥の飛翔がデザインされている



ピンクが愛らしいハスの花

この事態を心配し、美しい手賀沼を愛する市民の連合会(美手連)では、ハスの管理について市民ができる活動に取り組みたいと考えました。つきましては地域住人の皆様、手賀沼を愛する皆様のご意見を伺いたく、アンケートを行います。皆様のご協力をお願いします。」

(内容その1)

◆手賀沼のハスについて、あなたのご意見を教えてください。(あてはまる項目に○をつける)

1. 今のままがよい
2. 除去 *すべて除去
*半分くらいにする
*船の運航を妨げないくらいにする
3. 花が見えるように管理する
4. ハスの種類をかえ、花がたくさん咲く花ハスにする

(現在増えているハスはレンコン用のハスのため、観賞用ではありません。また、現状ではレンコンが採取できる可能性もありません)

(内容その2)

◆自由記入欄 ※ご自由にお書きください。

以上のようなアンケートでした。ハスの対策を含め、手賀沼の水環境保全や生物の生息環境改善に向けた市民団体・学識経験者有志の提案が千葉県にされました。みんなで手賀沼に目を向けましょう。

7月には、船上からの「ハスの見学会」が行われるそうです。

(環境レンジャー 松本勝英)

<ネイチャーイン実施報告>

ネイチャーイン「手賀沼の野鳥観察」実施報告



カワセミの出現におもわず歓声が！

「こんなに強い風が吹く中、はたして鳥は見られるのかな」「こんなに寒いのに、皆さん来てくれるのだろうか」それほど風が強くて寒い朝、水の館の前に向かいました。でもそれから30分ほどの間に次々と人が集まり、午前9時には野鳥を守る会と環境レンジャーも含めて60名以上の人が集まりました。1月30日に手賀沼遊歩道で行われた野鳥の観察会です。風が強い日、鳥たちはなかなか姿を見せてくれません。ちょっと心配しながら、班に分かれて、い

ざ出発！まずは水面を泳ぐコガモ・オナガガモ・カルガモを見ました。その後もカイツブリ・コサギ・ダイサギ・コブハクチョウなどの水鳥と空を飛ぶセグロカモメやユリカモメを観察しました。遊歩道の木や手賀沼横の田んぼや畑では、アオジ・モズ・カワラバト・メジロなどが見られました。また、

カワセミがさおの先にとまっています。残念ながらオオタカやノスリなどのタカ類は見ることはできませんでしたが、参加者の平野さんは「野鳥を守る会の人から解説があり、楽しかったです。」と話してくださいました。平野さんは普段から遊歩道を歩き、双眼鏡で鳥を見ているそうです。また利根町から参加してくださった方からは「実際の鳥と名前が一致しました。名前がおぼえられたのが良かったです。」という感想をいただきました。



このカワセミはオスですね

風は強かったけれど晴れていたため、「沼の面がきらきら光ってきれいでした。」(参加者の宮野さん)、またこの日は日曜日だったので、遊歩道には散歩をしている人や自転車に乗っている人がたくさんいました。やはり参加者の栗城さんから「鳥を見ている時に集中できないこともあり、出発前にそういう注意が必要だったと思います。」というご注意をいただきました。鳥を観察しながらも、他の散歩者や自転車の人と、お互いの楽しさを尊重することも大切だと思いました。風が強く寒い日でしたが、予想以上の数の鳥をみることができ、楽しい時間を過ごしました。

＜認めた野鳥＞カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ミコアイサ、ミサゴ、チュウヒ、バン、オオバン、イソシギ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハイボソガラス、ハシブトガラス。合計44種。＜番外＞バリケン、カワラバト。(我孫子野鳥を守る会発表)

(環境レンジャー 竹達智子)

中止しました

ネイチャーイン「将門伝説の地の巨木を訪ねる」

3月27日(日)に予定していましたが「将門伝説の地の巨木を訪ねる」は、11日に発生した地震の影響による成田線の運行情報や現地の被害状況から、中止とさせていただきます。

申込みいただいた方々へお詫び申し上げます。

(環境レンジャー 染谷廸夫)

＜ネイチャーイン予定案内＞

ネイチャーイン「初夏のかまくら道散策」

我孫子市の新木地区には、かまくら道と呼ばれる古道の一部が残っています。今回は、2年ぶりにこのかまくら道をネイチャーインします。さわやかな初夏、いにしへの道を辿りながら我孫子の自然を歩いてみませんか。途中の史跡なども訪れます。我孫子市環境レンジャーがご案内します。



日 時 平成21年5月29日(日) 雨天中止

集 合 JR新木駅南口 午前9時30分 (正午頃、湖北駅解散)

援・復旧作業をされている方々に敬意を表さずにはおられません。

自然が秘める^{ぼくだい}莫大な危険性を再認識させられました。16年前の阪神淡路大震災、7年前の新潟県中越大地震、そして4年前の中越沖地震はじめ、地学的なものとしては、三宅島、^{しんもえだけ}新燃岳の噴火が記憶に新しいことですが、他に、気象的な台風、猛暑、豪雪、集中豪雨などや、それに伴うがけ崩れ、^{なだれ}雪崩、土石流災害などがあります。また、動植物でも口てい疫、鳥インフルエンザ、コイヘルペスなどのウイルス性のものから、クマの多出現、スズメバチ被害、かみつικカメ、毒グモ、毒キノコ、今悩まされているスギ花粉症に至るまで、普段は人間を癒^{いや}してくれる自然も、時として人間社会に^{かこく}過酷な牙をむくことがあるのです。

人間は、その自然に対し、完全な征服を試みるのではなく防災・減災を講じなければなりません。自然との共存を目指すべきなのです。原子力発電所の被災事故は、^{かどう}稼働を始めた40年前の対策としては想定外だったのかも知れません。でも現実に起きてしまいました。

「人間は、日光、大気、水、大地、動植物などとともに自然を構成し、自然から恩恵とともに試練をも受け、それらを生かすことによって文明をきずきあげてきた。」(自然保護憲章より)

無計画な大規模開拓、無差別的な^{らんかく}乱獲、無秩序な^{おせん おだく}汚染・汚濁、無責任な外来生物の移入・^{ほうき}放棄などはきっと自然から“試練”を受けることになるでしょう。決して防災・減災にはなりません。



人間には、200万年もの歴史があり、先人たちからの経験と知恵があります。今、私たちは、それらの経験や知恵から正しく学ぶ姿勢と努力が必要でしょう。たとえば環境保全を心がけることもひとつです。

今回の大災害を、単なる歴史の一コマにははいけないと思います。

(環境レンジャー 松本勝英)

【編集後記】

進学・進級おめでとうございます。

「たまつけ」本号は、東日本巨大地震により少し変則的な構成になってしまいました。予定した記事も大幅にカットし、より身近な話題に絞りました。

トップは、春到来を告げる利根川ゆうゆう公園です。次いで受験された方もいるでしょう、手賀沼検定をとりあげました。すべて四択問題ですがかなり難問があったそうです。それから、手賀沼の夏を^{いろど}彩るハスがかかえる課題を紹介しました。ネイチャーインは、中止と取りやめで実施報告と予定案内が一件ずつ減りました。続いていた「環境の達人たち」シリーズも今回は^{かつあい}割愛しました。

この度の巨大地震に関しては「自然との共存」という切り口でとりあげました。一読ください。避難先で、寂しい卒業式や友を失って悲しい新学期を迎えたりしながら、不自由な生活の中、頑張っているみなさんの友達に負けないよう、あたらしい学校・クラスで頑張りましょう！

(たまつけ編集子)